

8月
インターンシップ
開催します!

電気工事士
現場管理技士
募集中!!



発行 / 株式会社 電建

〒660-0805

兵庫県尼崎市西長洲町1丁目2-45

TEL: 06-6489-2222

FAX: 06-6489-2223

WEB: <http://m-denken.com>

With your company

でんけん
倶楽部
NEWS

2026.7 第142刊

今月の
工事あつかるど



工務部
佐藤 友裕

地鎮祭
先日、弊社で施工させて頂く新築現場の地鎮祭に参加させて頂きました。地鎮祭とは、工事の着工前に、土地の神様を祀り、工事の安全と建物を建てる方の繁栄を祈願する儀式です。

テントの周りに紅白の幕が張られ、整然と並べられた椅子の前には祭壇があり、神様をお祀りする準備が整っています。脇には上部に草を立てた盛砂が並べられていて、ここで鎮座の儀が行われます。神主さんの祝詞奏上から儀式が始まると、参加する全ての人の思いが一つになり、目には見えないエネルギーが生まれるのを感じました。

最近では街中でこのような儀式を見る事は少なくなりましたが、この歳で改めて参加させて頂くと、昔からある儀式や風習の大切さを感じます。

今回関わらせて頂く建物は、重度障がい者向けのグループホームで、お施主様の世の中に対する強い思いが込められたものです。

私たちも、この場所から社会の良い循環が生まれる状況をイメージして、最高の工事をご提供させて頂きます。



電建
diary



工務事務
中安 春奈

企業インタビュー

先日、武庫之荘総合高校にて企業インタビューに参加しました。高校1年生からの、仕事を中心とした質問に対して答えていくという内容です。

特に多かったのは「やりがいは何ですか?」という質問。質問されることで、自身の仕事をもう一度考える機会になりました。

私のやりがいは、仕事を通じてお客様が良くなること、喜んでいただけることです。もう一つは仕事を通じて感じる共同体感覚です。誰かの仕事を通じていても、1人では成しえない。誰かの後援で、自分は仕事が出来ている。その循環自体がとても尊く幸せであると感じています。また、電気という現代にはなくてはならないインフラの部分の仕事をしています。説明をしていく中で、自分は仕事の意義や会社の理念等を学生に本当に胸を張って話せる場所まで落とし込めているだろうか?と感じました。

高校生の率直で素直で純粋な質問に、何のためか、志に仕事をやるのか、志は何か、自問自答して日々を過ごすことが大事だと、気付かされました。

これからの日本の未来を担う高校生達。仕事を楽しんでいると思えるような社会を作るべく精進してまいります。



社長の独り言

松本晃幸



人は出会うべき人には、
必ず逢える。
一瞬遅からず、一瞬早からず

教育学者であり哲学者の森信三先生のお言葉です。聞いたことのある方も多いかと思いますが。

私も58歳になり、人生の折り返しを過ぎて尚、やりたいう事、成し遂げたいことが多くあります。そんな私も、この年月を生きてきたわけですから、人との出会いや別れ、経験が日に日に増えていきます。振り返ってみると様々な方との出会いが今の私を支えてくれていると思います。私が人生で最初に出会ったのは、父と母です。そして兄弟、この関係性だけは絶対に外せない

ので運命とは言えず、宿命ではないかと思えます。その他多くの方々との出会いがありました。やはり今考えると、良くも悪くも出会うことにより成長させて頂いたという事実を感じます。

そして、私は経営者をさせて頂いて、本当にありがたいと感じています。経営者だからこそ、多くの経験をさせて頂いたとき、人としての成長に役立たせて頂いております。

先日地元のFMラジオに出演させて頂きました。が、パーソナリティは私の友人ご夫婦であったため、10年ほど前の話題になりました。当時の私を思い出しながら話をしましたが、自分で「別人だ」と感じました。当時と今の生活スタイル、価値観、興味のポイントさえ変わっていることに気が付いたのです。

経営理念

夢への挑戦

私達は電気工事を通じて日本経済の発展を支え
関わる全ての人々の愛が溢れる社会を実現します

会社概要

社名	株式会社電建
所在地	〒660-0805 尼崎市西長洲町1丁目2-45
TEL	06-6489-2222
FAX	06-6489-2223
E-mail	info@m-denken.com
URL	https://www.m-denken.com
事業内容	電気設備工事、空調・換気設備、通信関連設備 防犯・防災設備、その他電気機器販売



電建 HP

でんけん
YouTube チャンネル

でんけん
TikTok

でんけん
Instagram

高圧専用サイト



もしかしたら今や面白くないオジサンになってしまっただけかもしれません。それでも私は今の方が幸せを感じています。

出来るだけ良心に従うように。出来るだけ人の事を優先して考えるように。出来るだけ目に見えないものを感じるように。利己的な考えや自分自身を無くすように。そう心がけていますが、なかなか簡単ではないと思います。それでも、朝起きてから神社に参ったり、神棚に手を合わせ、感謝と世界の平和を思うと、不思議と心が前に向き、改めて反省したりしながら、毎日を前向きに過ごすことが出来るようになりました。この慣習も人との出会いから。

そんな私が、もっと大事だと思っているのは、修羅場や災難、苦難を与えて頂いた時。この時に大きく成長できることは間違いありません。感謝出来ないのは己が熟していない証拠と考え、感謝するようにトレーニングしています。





工事部
國重 幸太郎



総務経理部
中島 依里

電気の周波数について

普段コンセントに流れる電気は交流といい、波のように規則正しく電気の流れの向きと大きさが入れ替わっています。これを周波数（Hz）といい、東日本が50Hz、西日本が60Hzという二つの周波数が混在する珍しい仕組みになっています。

実は、技術的な理由ではなく明治時代の買入物の違いが原因です。当時、東京電灯（現在の東京電力の前身）はドイツ製の発電機を導入し、その周波数が50Hz。一方で、大阪電灯（関西電力の前身）はアメリカ製の発電機を採用し、こちらは60Hzでした。

本来ならどこかで統一するはずでしたが、全国に電気が普及した後では設備の入れ替えコストが莫大となり、結局そのまま現在まで続いています。

この歴史の偶然が、今も家電の仕様や電力融通の仕組みに影響を与えているのです。



電気工事士奮闘記



工事部
松本 雄大

古い設備を未来につなぐ

先日、京都府の某現場でヒューズ付きの旧型ブレーカから、ヒューズフリーの新型ブレーカに更新させていただきまし

た。ヒューズ付きのブレーカは見た目で電気が遮断されているのかどうかの判定がしにくく、またヒューズ交換のための停電が必要になる一方で、現在主流のヒューズの無いブレーカであれば、一目で電源の入切状態が判別でき、復旧にも別途停電が必要ないため、格段にメンテナンス性が向上しました。高圧機器だけでなく、直接お客様設備へ繋がるブレーカも老朽化による故障などで設備が使えなくなる可能性があります。ブレーカは一般的に10～15年で寿命が来るといわれております。

是非、定期的な設備の見直しをお願いいたします。



電建図書

電建の事務所の真ん中に大きな本棚があり、その中にある本は、通称「電建図書」と呼ばれています。社長が実際に読んで感銘を受けた本や、社員に読んでほしい本たちがぎっしり並んでいます。

ジャンルもさまざまで、電気工事書はもちろん、ビジネス書、実用書、エッセイなど幅広く揃っています。普段自分では選ばないような本との出会いがあるのも、この「電建図書」の魅力のひとつです。現に小説しか読まなかった私も、ビジネス書や自己啓発本を読み始めました。今まで知らなかった考え方や価値観に触れることで、新しい気づきや学びがあり、本の世界がぐっと広がったように感じています。

電建では本を読むことを推奨しており、期末には電建図書最多読者賞という、最も本を読んだ社員を表彰する取り組みもあります。

電建の事務所へお越しの際には、電建図書のラインナップをぜひご覧ください。



今月のちよつと一言

合同企業説明会



総務経理部
佐藤 陽香

6月に入り、3件の合同企業説明会に参加してきました。1件目の東京はインターンシップにつなげることを目的とした大学生向けのもの、2件目の神戸は留学生向け、3件目の大阪は大学3・4回生向けと対象は様々でしたが、会社を知ってもらおうという目的は共通しております。

今回連続して行った事で、対象に応じて話す内容を変える必要性を実感しました。これまでは概要や取組みをまとめて話していましたが、相手が求める情報を伝えるためには、話しても伝わらず、効果的ではありません。ブースも椅子カバやテーブルクロスを新調し、インパクトのあるブース設営をしつつ、立ち寄ってくれた皆さまにとつてより電建の魅力が伝わるような説明ができればと考えて実施しました。

最終的にはお互いの価値観をすり合わせる事が大切だと考え、より多くの方に価値を届けられる伝え方を追求していきたいと思っています。



電建 photo studio

電建木鶏会が復活しました

Check

京都のビル屋上のキュービクル工事を施工させて頂きました

笑顔盛り



総務経理部
中島 依里

読者の方と出会う

以前参加した説明会で、「いつもニューレター読んでます」と言っていたいただきました。毎月読んでいただけで嬉しいうのに、感想まで述べてくださって、この上ない程の幸せでした。事務として働いていると、お客様と直接お会いすることは多くありません。しかし、その時初めて、お客様や読者の方のお顔を思い浮かべることができたのです。毎月約350件ほど本誌の発行を行っておりますが、その先の読者の方の声が聞けるというのは、こんなにも嬉しいものなんです。

さらに嬉しいことがあります！本誌は主に、過去に工事をご依頼いただいたお客様にお送りしています。しかし時には、工事のご担当者様以外の社員の方からも本誌を読んだことをきっかけに、ご依頼のお電話をいただいたりもします。

これからも、皆さまに少しでも楽しんでいただき、お役に立てることを目指して、一文字一文字に思いを乗せて発行してまいります。

